

[ 成果情報名 ] 冬季夜温がスプレーカーネーションの採花本数および切り花品質に及ぼす影響  
[ 要約 ] スプレーカーネーション‘ ライトピンクバーバラ ’と‘ チェリーテッシノ ’では、冬季夜温が高いほど到花日数が短縮して、株当たり採花本数が増加するとともに側花の花らい数が減少する。切り花品質を考慮すると冬季の好適夜温は10～15 と考えられた。

[ キーワード ] カーネーション、スプレー、冬季夜温、切り花品質

[ 担当 ] 静岡県農林研・伊豆農業研究センター

[ 代表連絡先 ] 0557-95-2341、電子メールagriminamiizu@pref.shizuoka.lg.jp

[ 区分 ] 関東東海北陸農業・花き

[ 分類 ] 技術・普及

-----  
[ 背景・ねらい ]

暖地におけるカーネーション栽培では6～7月に定植、冬季に施設を加温し生育を維持しているが、暖房コストの増加により設定温度を下げる事例も見られ、収量や切り花品質への影響が懸念されている。これまではスタンダードカーネーションを中心に調査が行われてきたが、スプレーカーネーションではまとまった報告が少ないので、冬季夜温管理温度を5、10、15および20 に設定した施設で静岡県のスプレーカーネーション主要2品種を栽培し、好適な冬季夜温管理について検討する。

[ 成果の内容・特徴 ]

- 1．夜温が高くなるほど採花本数は増加する(表1)。
- 2．切り花品質では冬季に採花する2次摘心側枝で差が顕著となり、夜温5 の切り花長、節間長が長くなり、切り花重が重くなる。夜温20 では節間長が短くなる(表2)。
- 3．花らい数は夜温が低くなるほど増加する(表2)。
- 4．花色の変化は‘チェリーテッシノ’で認められ、夜温20 で白色覆輪発現が不鮮明となり、夜温5 で花弁の桃色が薄くなる(図1)。

[ 成果の活用面・留意点 ]

- 1．本試験はガラス温室(20m<sup>2</sup>)で6月下旬定植、加温は11月上旬から行っている。
- 2．本試験で供試したスプレーカーネーション2品種はいずれも中生に分類されており、早晩性の異なる品種では生育特性の一部が異なる可能性がある。

[ 具体的データ ]

表1 冬季夜温がスプレーカーネーションの株当たり時期別採花本数に及ぼす影響

供試品種	夜温 ( )	採花本数(本)			合計
		採花開始 ~12月	1月~ 3月	4月~ 5月	
ライトピンク パーバラ	5	1.6 b <sup>y</sup>	1.8	3.7	7.1 b
	10	3.0 a	1.1	3.6	7.7 ab
	15	2.9 a	1.6	3.8	8.3 ab
	20	3.1 a	1.6	4.1	8.8 a
有意性 <sup>z</sup>		*	ns	ns	*
チェリー テッシノ	5	2.6 b	0.6 b	4.0	7.2 b
	10	2.8 ab	1.1 b	3.9	7.8 ab
	15	2.9 ab	2.2 a	3.6	8.7 ab
	20	3.1 a	2.3 a	3.9	9.3 a
有意性		*	*	ns	*

<sup>z</sup> 分散分析により\*は5%水準で有意差あり, nsは有意差なし

<sup>y</sup> Tukeyの多重検定により同符号間には5%水準で有意差のないことを示す

表2 冬季夜温がスプレーカーネーションの2次摘心側枝<sup>z</sup>の切り花特性に及ぼす影響

供試品種	夜温 ( )	切り花長 (cm)	切り花重 (g)	切り花節数 (節)	節間長 <sup>y</sup> (cm)	1次花らい <sup>x</sup> 数(花)	全花らい <sup>w</sup> 数(花)
ライト ピンク パーバラ	5	81.5 a <sup>y</sup>	76.1 a	14.0 b	8.1 a	6.6 a	18.9 a
	10	72.9 b	65.5 ab	14.0 b	7.2 ab	6.1 ab	15.4 ab
	15	68.7 bc	60.8 bc	14.7 b	6.9 b	6.2 ab	12.3 bc
	20	67.1 c	47.3 c	15.9 a	5.9 c	5.9 b	9.9 c
有意性 <sup>u</sup>		*	**	*	*	*	**
チェリー テッシノ	5	88.3 a	65.2 a	15.4 b	7.6 a	6.6 a	12.5 a
	10	74.6 b	53.6 b	15.8 b	6.1 b	6.5 a	7.7 b
	15	75.2 b	44.6 c	15.8 b	5.6 bc	6.2 a	6.2 c
	20	77.7 b	31.6 d	18.4 a	4.9 c	4.6 b	4.6 d
有意性		**	*	**	*	**	*

<sup>z</sup> 2次摘心後に発生する側枝2本の平均

<sup>y</sup> 第4~5節の長さ

<sup>x</sup> 頂花を除いた側花の花らい数

<sup>w</sup> 頂花を除いた1次花らい数と2次花らい数の合計

<sup>v</sup> Tukeyの多重検定により同符号間には5%水準で有意差のないことを示す

<sup>u</sup> 分散分析により\*\*は1%, \*は5%水準で有意差あり



図1 冬季夜温の違いが‘チェリーテッシノ’冬季の花色に及ぼす影響

z 2008年3月3日撮影

[ その他 ]

研究課題名：養分吸収特性に即したカーネーション灌水同時施肥栽培体系の確立と有望品種の育成選抜

予算区分：県単

研究期間：2006~2010年度

研究担当者：馬場富二夫、稲葉善太郎

発表論文等：